



あじさいⅡ



鹿角手をつなぐ親の会

情報誌

平成30年10月・第22号

第60回秋田県大会（鹿角・小坂地区大会）盛会に！



☆ 知事表彰 木村さん
☆ 県会長表彰 柳沢さん

節目大会での受賞、誠におめでとございます

当会のリーダーとして、ますますのご活躍を期待しています

圧巻！

比内支援学校かづの校による
「花輪囃子」の演奏と町おどり



幸せを再確認させられた光景

中学生(東京都 13)

あなたは幸せですか?私は6年間のカンボジアでの生活を振り返って、「自分は本当に幸せ者だ」と感じるようになりました。

カンボジアには自分より苦しい思いをしている方がたくさんいました。家を持っていない方、道で物を売っている方、学校にいかずに家の仕事を手伝っている子ども……。そんな方も、目が合えば私に笑顔を向けてくれ、人生を楽しんでいるようでした。私は学校にも行けて、友だちもたくさんいて、両親は仕事もあり、こんなに幸せに過ごしているのに「自分は不幸せだ」と思っている自分が情けなくなります。

このことを思い出してからは、うまくいかないことがあっても「自分は不幸せだ」と考えなくなり、すぐに立ち直ることができています。皆さんも、自分の周りのことから、少し視野を広げてみてはいかがでしょうか?

私の向日葵が教えてくれたこと

高校生(神奈川県 17)

私は去年の夏、妹を亡くした。妹は生まれながらに障がいを持っていたが、顔をくしゃくしゃにして楽しそうに笑う姿は向日葵のようだった。

私は幼い頃から、妹を見る人の目が気になっていた。「こっちを見ないで」「放っておいて」といつも思っていた。重い障がいで、車いすで移動する妹といると、冷たく、珍しいものを見る視線を向けられていると感じ、恥かしいとさえ思うこともあった。可哀想だと言われることもあり、みんな嫌いだと思った。

でも今、そんな人の気持ちも理解できる。確かに、妹はチューブにつながれていたため少し特徴があったのは事実だし、見られるのも仕方がない。だが、周りを見るとどうだろう。顔、体形、性格。人はみな少しずつ違う。人にはそれぞれ特徴があり、だからこそ個性が生まれる。たとえ障がいがあってもそれも含めて自分なのだ。



鳥海山 ヨツバシオカマ

懸命に「生きる」ことこそ尊い

無職(神奈川県 67)

障がい者が社会で生活していくためのモチベーションとしてよく言われる文句に「社会に必要とされる」「誰かの役に立つ」というのがある。決して間違いではないと思うが、どこか押しつけがましく、上から目線、健常者目線のように感じられてならない。障がい者がそろう社会に必要とされるために生きていくわけでもないし、誰かの役に立つことを目指して生活しているわけでもない。そしてそう思っても何も出来ない、そう思うことすら困難な障がい者もいるだろう。

私の息子も若くして脳梗塞を発症し、10年になる。幸い、近くの老人介護施設でのパート勤務に恵まれ、生活の糧を得ている。片半身まひと失語症の後遺症で誰かの役に立つことも困難だが、懸命に生きている。息子が発症したときも、そして今も、息子が社会に必要とされなくても、誰かの役に立たなくても生きていてさえくれればと思っている。その生きる姿こそ尊敬すべきだと感じている。「必要とされる」「役に立つ」のとらえ方は人それぞれ。生きることこそ、そもそものモチベーションと考えてもいいのではないだろうか。



どの命にも優劣ない社会願って

主婦(神奈川県 34)

5月に出産した息子はダウン症です。我が子が生まれながらに障害をもっている事実を知った直後こそ大きなショックを受けました。しかし、いろいろ調べると、実はダウン症やそのほかの染色体異常を持つ胎児の多くは、誕生する前に流産などで母体の中で淘汰される運命にあるということを知りました。ある医師は「生まれてくる子は強い生命力を持っていて」と聞かせてくれました。我が子もそんな強い生命力を持ってきた一人なのだと思ふと、

今では母親として息子を誇らしく感じます。そしてまた、ダウン症に限らず障害をかかえながら生まれてくる子すべてが、ほかの命と変わりない強く逞しい命の持ち主であるということに気づかされました。今、社会的にも障害をもつ人との共存の在り方を議論し、模索されておりますが、どの命も優劣なく朗らかに生きていける社会であることを願わずにはいられません。そのためにも大それたこととはできずとも、まずは私自身がこの子とのよい一日を一步一步積み重ねていきたいと思います。日々を過ごしています。

9月2日(日)、大湯温泉・ホテル鹿角で開催された第60回手をつなぐ育成会秋田県大会は、節目の大会を祝うような秋日和にめぐまれ、県内各地から約400名の会員、関係者、民生委員や一般市民などの参加のもと大変有意義な大会となりました。

昨年9月に地元実行委員会を立ち上げ、大きな課題の「運営資金づくり」には委員が精力的に取り組み個人協力金で812口41万円、協賛広告は36の企業や団体、施設等から21万円のご支援をいただきました。〈県事務局の決算前全県集計では予算額を達成している〉

また、60回を数える大会のマンネリ化を危惧して独創性や新味を加える企画を取り入れて、いつまでも参加者の心に残る「平成最後の大会」にすることができました。

山崎智晴君の「私たちの大会宣言(案)」朗読提案は、所作も朗読も落ち着いて堂々としたもので、賞賛の大きな拍手のなかで採択されました。

趣向を凝らしながらステージいっぱいには繰り広げるリンゴレンジャーのアクション、笛、太鼓、鉦が奏でる軽快ながら重厚なお囃子と手踊りの花輪囃子に会場は興奮し、感動していました。

学習会は、障がい児施設の新たな発想のもと県内初の施設として平成28年に開所した3棟の歩みと利用者や家族のもつ課題への対応について事例を挙げ、寸劇を交えて分かりやすく解説してくれました。講演は、県や市町村の障がい福祉計画と花輪ふくし会のチャレンジが主題でしたが、大館市の会員がうらやむほどの「障害者福祉に取り組む同会の積極姿勢」を鹿角に住む者としても誇らしく思いつつ、引き続き花輪ふくし会との連携を強くしていくことが重要だとの思いを強くしました。

本人大会(友だちの会)のレクコースでは、雨天の場合を考えて急遽「音楽で生き活きと・・・」を加えたことが好評で、見学した方々は本人たちのリズム感、豊かな表現力などに驚嘆していました。

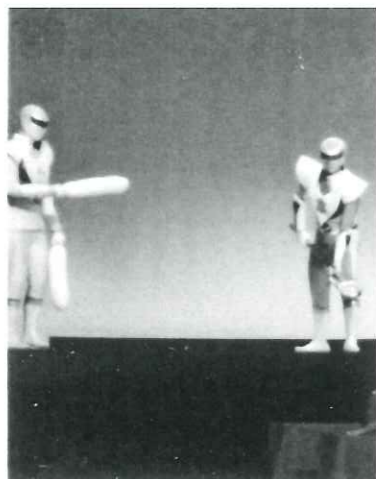
社会見学コースも「生の芝居を観る」のは初めての方が多く、また、明治の鉱山の姿を垣間見ることができたことは良い体験であったと付き添いの保護者も喜んでおられました。

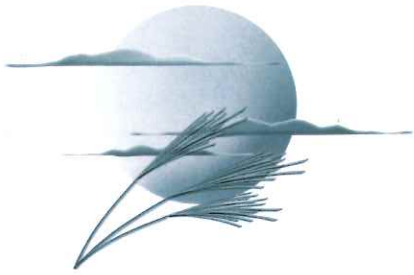
さらに60回を重ねてきたこの大会で初めて吹奏楽団の演奏が行われたことなど他市町、施設等の参加者から「いい大会であった。鹿角まで来てよかった。」「採点すれば150点、いや200点だ。」などと高い評価の声が聞かれ、「ありがとう!ごころうさん。」とねぎらいの声もたくさんありました。

会員が結束して取り組み、協力をお願いした学校、施設、団体からも組織を挙げてご尽力をいただき、鹿角の地域力の素晴らしさを改めて強く感じながら感謝しています。

一方で、誰もが県内市町村育成会(親の会)をリードする立場にあると思っている秋田市の育成会からは田中会長(県育成会副会長)ただ1人の参加であった。鹿角は遠いが、しかし、ほかに何か事情があったにしても残念であり、腑に落ちないものを感じました。

このことは主催者である県育成会にとっても大きな問題であり、話し合う必要があると思います。





障害ある若者は努力しています

保育士（山口県 44）

中央省庁が障害者の雇用数を水増ししていたという記事を、悲しく悔しい気持ちで読んでいます。息子が通う特別支援学校では、小・中・高の12年間を通して、働く体験が中心の授業に取り組み。卒業後の自立や社会参加のため、学校と家庭が連携し、年間通じた就労相談や企業や福祉施設の見学会など生徒も先生も保護者も必死だ。

芸、内装、介護技術など、本人の特性に合わせた作業学習に取り組む。「できませんでした。確認して下さい」「分かりません。もう一度教えて下さい」と声出して練習から始まり、私語はなく進んでいく。作品の完成度は高く、秋の文化祭で販売すると地域の方に大人気だ。

支援学校の生徒たちは机上の勉強よりも経験、実践重視。先生方の指導のおかげもあって、あいさつなども礼儀正しいと思う。いずれ厳しい社会に出て行く息子たち。雇用数の水増しなどで、その努力を踏みにじらないうで欲しい。将来の居場所を奪わないで欲しい。

最低賃金をさらにアップを望む

介護福祉士（埼玉県 58）

厚生労働省の中央最低賃金審議会の小委員会が、2018年度は最低賃金を全国加重平均で26円引き上げる方向でまとめたことを知り。「あの方々」の顔が浮かんだ。

私は昨年、埼玉県内にある障がいをもつ方の就労継続支援A型事業所で、数日間指導員の体験を行った。平均20〜30代の利用者が事業所と雇用契約を結び、県の時給の最低額をもらって働いていた。

仕事ぶりは実に真面目で私語は全くなかった。配水管の会社から管にラバーを巻く仕事を請

け負っていたが、わずかのすき間やしわも出さずきれいに仕上げていた。「きちんとやらないと商品にならないから」と言っていたが、その中に「仕事を回してもらえなくなる」という思いが含まれていると感じた。

工場では「ここにいる間は工場の一員だから」と真剣な表情で立ち作業を行っていた。今日も猛暑の中を事業所に通い、工場で汗を流しているだろう。

わずか26円のアップだが「頑張ってきたよかった」と喜ばれているかもしれない。家庭を持つ方もいる。最低でも1ヵ月15万円の基本給が必要だろう。さらなるアップを切望する。

障害者との向き合い方に悩む

高校生（岐阜県 16）

私の母は障害者施設で働いている。中学生の時、そこで開かれるお祭りに参加した。

それまで障害者を見て笑う人もバカにする人も最低だと思っていた。じろじろ見る人もだ。でも、そのお祭りで多くの障害者に会うと、衝撃で心が痛くなり、思わず見つめてしまった。バカにしていなくても障害者には同じに見えるかも、と怖くなり、あわててその場を離れた。普通に接したくても、どこか違う心を持ってしまう。そんな気持ちで会っていいのか。障害者を傷つけてしまうから会わない方がいいのではないのか。自信をなくしていた時、母が言った。「あなたのような人に障害者の皆さんは慣れてる。偏見とは違っているとわかってるよ」

ベストな対応はできないかもしれない。でも、まずは向き合うことが大切だと思った。

発達障害



生まれながらの脳の機能障害が原因とされ、人とのコミュニケーションが苦手な自閉症などの「広汎性発達障害」、気が散りやすく落ち着きがない「注意欠陥・多動性障害（ADHD）」、

読み書きや計算など特定領域に困難を抱える「学習障害（LD）」などがある。特性に合わせた様々な配慮や工夫をすることで、学校生活や社会に適応しやすくする。

さりげなく あたりまえに
共に街の中で暮らそう！